

シンガポールが世界に誇る陸上公共交通システム ～陸上交通庁（LTA）、SMRT コーポレーションに訪問～

シンガポール事務所

シンガポールでは、1965年の独立後、都市部の深刻な交通渋滞、非効率な公共交通網、インフラ整備など、多くの発展途上国の大都市が抱える問題に直面していました。

しかし、小国ならではの利点を生かし、MRT（大量高速輸送システム）の導入や路線バスによるきめ細やかな公共交通網の整備などにより陸上交通問題を克服するための政策を実施し、今日では世界に誇る陸上交通システムを構築したと評価されています。

今回、道路・バス・鉄道などの陸上交通全般を所管する政府機関とその運営を受託している企業に訪問する機会がありましたのでご紹介いたします。

1 陸上交通庁：Land Transport Authority：(LTA)

運輸省管下の法定機関である陸上交通庁（以下「LTA」という。）は、地下鉄、自動車等の車両交通を含む全ての陸上交通機関に係る政策を一元的に管理・運営し、快適で質の高い陸上交通システムを構築することを目的とした機関です。

LTA 内には陸上交通アカデミーやギャラリーが併設されており、シンガポールの陸上交通政策について学習することができます。

（1）道路整備

高速道路から区画道路に至るまで、全ての公共道路の建設・管理を LTA が行っています。公共道路の総延長は 3,496km であり、総延長 164km の高速道路、その他の幹線道路のネットワークにより国内各地は縦横に結ばれています（※1）。



学習施設も併設している LTA（外観）

（2）MRT (Mass Rapid Transit System：大量高速輸送システム)

MRT は、街の中心部では地下、郊外では高架を走る都市型高速鉄道で、1987年の開業以来、順調に利用者が増加しています。

国内に 109 の駅があり一日の平均乗客数は 276 万人（※1）を超え、シンガポールの公共交通の基幹となっています。

現在は、2013年に Downtown Line 路線の一部（チャイナタウン駅～ブギス駅間 4.3km）が開通し5路線が運行しています。

各駅の建設に際しては、周辺の景観や環境、地域の特色のあるデザインが取り入れられているほか、利用者の利便性を考え、ショッピングモールなどの大型商業施設やバス

停、タクシースタンドなどを併設した統合型の駅舎も建設されています。また、今後の都市開発に対応するため、駅を地下通路で結ぶ延長計画など関係省庁と連携した取り組みも進めています。

(3) 路線バス

バスは MRT 網を補完するように島内全域に路線が張り巡らされており、住民の最も身近な公共交通機関であり一日の平均利用者数は約 375 万人(※1)となっています。

定期路線は、SMRT Corporation と SBS Transit の 2 社によって運営されており、全体で約 3,800 台のバスが運行されています。

(※1) 2014 年 12 月末時点の統計

2 SMRT コーポレーション：SMRT Corporation

シンガポールの公共交通機関は、LTA が駅・バスターミナルなどの建設や車両の購入を行い、運営部分を民間企業に委託しています。

SMRT コーポレーションは、MRT、LRT、バス、タクシー、施設の運営を入札により一括して LTA から受託しています。MRT は南北線と東西線、サークル線の 3 路線、バスは 102 路線の 1,200 台を運行し、これらの交通機関の一日平均乗客数は約 300 万人となっています。

収益としては、運賃などの料金収入のほかタクシーの貸し出し、商業施設の賃借料、建設・メンテナンス業、国内外での技術コンサルタント業によるものとなっており、タクシーは 3,300 台の内、98%はタクシードライバーに貸し出し、駅構内の商業テナントは 700 店舗を管理しています。

MRT 駅構内での利用者へのサービスとしては、電子機器の充電コーナーの設置やエレベーターに設けられた体の不自由な利用者への優先ライン、混雑する駅での混雑状況を教える信号機の設置などを行い、利用者への利便性を図っています。

また、従業員 8,000 名の社内教育にも力を入れており、1990 年代から 2010 年までは、車両故障やタクシー火災、バスドライバーのストライキなどがありましたが、社内の人材を育成することでも改善を図っています。

具体的には、Work for Service Quality (WSQ) という社員に対するチームワークを構築するトレーニングを部門別で実施しており、現在、80%の社員が受講し、2015 年の前半には全社員が終了する予定となっています。この費用については、受講した際の試験に合格した社員の費用についてのみ政府から 80%の助成を受けることができます。



公共交通の基幹である MRT

3 おわりに

LTA は、2013 年に陸上交通マスタープランを策定し、これまでの公共交通をより効率的にするため、MRT の新規路線や新しいバスターミナルの整備のほか、運行間隔の短縮による車内混雑の緩和やバス・タクシーのバリアフリー化などに取り組んでいくこととしています。

日本の自治体においても、交通政策は重要な課題であり、都市部での交通渋滞解消や高齢化が進む地域での公共交通機関整備など課題解決のヒントをシンガポールの取り組みに見出せるのではないのでしょうか。今後、更に利便性を追求するシンガポールの公共交通政策に注視したいと思います。

(金子所長補佐 山口県山口市派遣)

